

価値創造プロセス

このページでは当社グループが社会課題を解決するためどのように事業活動を展開し、ステークホルダーへどのような価値を創出しながら発展していくのかを示しています。
この価値創造プロセスを通じて、当社グループは「人々の生活と産業を支えるパートナーとなる」ことを目指し、その成果を各種資本へ転換・蓄積していきます。



INPUT 6つの資本

当社グループの経営基盤を支え、価値創造の源泉となるのが「財務」「製造」「知的」「人的」「社会・関係」「自然」の6つの資本です。それぞれの資本をインプットとして活用し、生み出したアウトプット・アウトカムを通じて、これら6つの資本をさらに蓄積、強化していきます。

財務資本



企業の持続的成長に向けた投資は、健全な財務基盤によって実現可能となります。当社グループは第2次中期経営計画で2030年度までに1,000億円の事業投資を行うことを目標に掲げています。積極的な事業投資を推進し、グループの価値創造を支えます。

| | | |
|--------|---------|----------|
| 連結売上高 | 6,544億円 | (2024年度) |
| 営業利益 | 118億円 | (2024年度) |
| 経常利益 | 128億円 | (2024年度) |
| ROE | 7.5% | (2024年度) |
| 自己資本比率 | 54.8% | (2024年度) |

製造資本



当社グループは1952年の創業以来、航空燃料取扱業をはじめ、石油、LPガス、化学品、都市ガスを含む天然ガス販売業と事業領域を拡大してきました。全国に広がる拠点を効率的に活用し、安定供給につなげていきます。

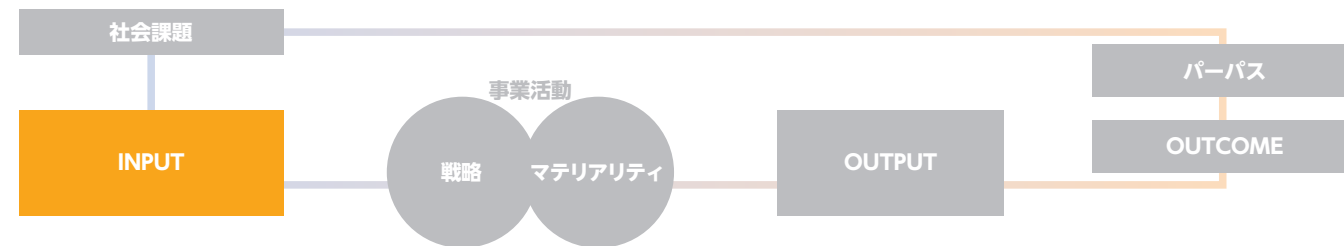
| | | | |
|-------------|--------------|----------------|---------|
| 主要油槽所 | 4ヶ所 | サービスステーション（系列） | 全国981ヶ所 |
| LPガス充てん所 | 11ヶ所 | 航空燃料取扱業務を担う拠点 | 全国27ヶ所 |
| 化学製品製造所（工場） | 1ヶ所（三愛理研（株）） | 天然ガス導管網総延長 | 479.9km |

知的資本



知的財産や技術力など、無形資本の重要性が高まる中、当社グループ全体で知的資本の最大化を図ることが重要です。また知的資本の強化は将来、当社グループを支える事業の柱を増やし、育てることにつながります。今後も各事業における新たな知的資本の創出、強化を推進していきます。

| | |
|--------------------------------|------|
| ハイドラントシステムによる航空機への効率的給油 | |
| LPガス小売販売におけるLPWAシステムを活用した保安高度化 | |
| 風力発電所向け内視鏡調査技術（ボアスコープ調査） | |
| クリーンテック事業における金属表面処理技術 | 特許8件 |



※数字は、特記のない限り、2025年3月末現在のものです

人的資本



2024年3月に「人的資本経営に関する基本的な考え方」を開示しました。当社グループは、人材を最大の経営資本と捉え「人財力」を高めることが、企業価値の最大化・持続的な発展につながると考えています。また「人材ポートフォリオの最適化」「働きやすさの創出」「多様な人財の活躍促進」を通じて、社員のエンゲージメント向上に取り組んでいます。

| | |
|----------------|----------------|
| 連結従業員数 | 1,841人 |
| 従業員1人あたりの教育費 | 97千円 (2024年度) |
| 採用に占めるキャリア採用割合 | 73% (2024年度) |
| 新卒採用人数に占める女性割合 | 15.9% (2024年度) |

社会・関係資本



企業価値向上には、お客さまをはじめ、社員、地域社会、株主、投資家、取引先などさまざまなステークホルダーとの良好な関係づくりが大切です。社内外のステークホルダーとの積極的かつ建設的な対話を通じて、企業価値の向上を図っていきます。

| | |
|---------------------|---------------------|
| 創業 | 73年（創立1952年） |
| 三愛オブリグループ会社数（連結子会社） | 23社 |
| 特約店販売サポート（石油・LPガス） | 677社（石油385社・ガス292社） |
| LPガス小売顧客軒数 | 122千軒 |
| 各拠点地域における社会貢献活動数 | 76件 |

自然資本



当社グループの事業は天然資源やエネルギーに依存していますが、エネルギー供給を担う者の責務として、資源とエネルギーの効率的利用を追求し、環境負荷低減に取り組んでいます。

| | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| CO ₂ 排出量（Scope1、Scope2） | 14,940t (2024年度) |
| 水使用量 | 257千m ³ (2024年度) |
| 廃棄物量 | 3,317t (2024年度) |
| グリーン電力購入量 | 2,839千kWh (2024年度) |
| 太陽光発電所 | 4ヶ所 |

事業活動

戦略―第2次中期経営計画

三愛オブリグループは、2030年度に目指す姿「低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオへの進化」を実現するために、中期経営計画「変貌する未来への挑戦～Challenge2030～」の第2ステージとして「戦略の実行と投資の加速」を推進し、新たな事業ポートフォリオの実現に向けた動きを加速していきます。



事業活動

マテリアリティ

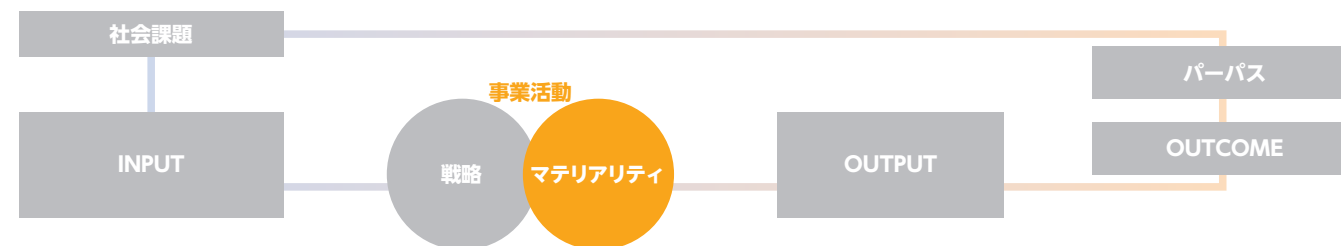
地球規模で環境・社会問題が深刻化する中、三愛オブリグループは2021年12月「サステナビリティ基本方針」を策定し、サステナビリティに関する取り組みをこれまで以上に深化、発展させることを表明しました。当社グループの経営資源と事業特性を活かしながら、社会が直面する課題に積極的に対応していきます。

マテリアリティの特定

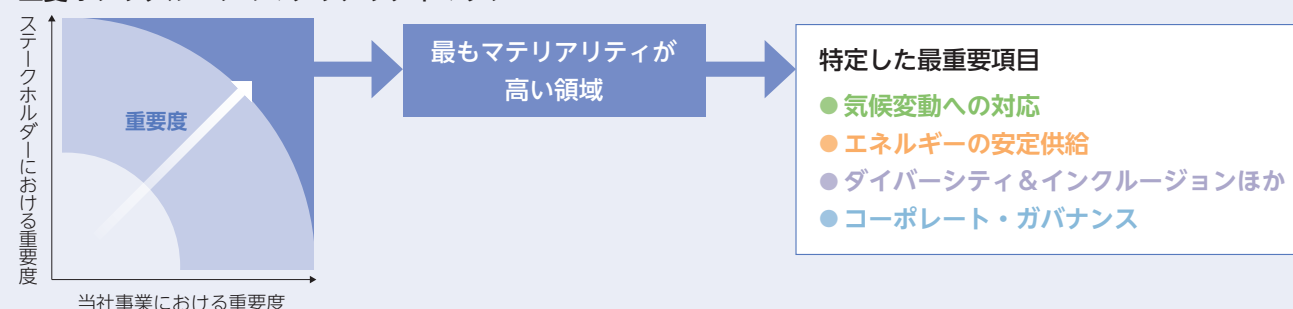
現代社会には数多くの社会課題が存在しますが、すべてに取り組むことは不可能です。そこで、当社グループの事業活動と社会課題の関連性を整理し、優先的に取り組む重要課題（マテリアリティ）を特定しました。さらに特定した課題がSDGsのどのターゲットに該当するか、主な取り組み事例とともに以下の表で紹介しています。

マテリアリティの特定プロセス

- 課題の抽出**
GRI、TCFD提言、SDGs、ISO26000等を参照し社会課題を抽出
- 優先順位の設定**
ステークホルダーと当社事業の2つの評価軸により優先順位を設定
- マテリアリティの特定**
特に重要な4テーマについてサステナビリティ委員会で妥当性を確認し、取締役会で承認



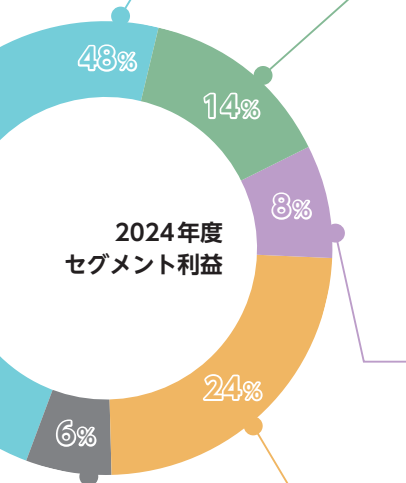
三愛オブリグループのマテリアリティマップ



| マテリアリティ | 概要 | 主な取り組み | 実績（2024年度） | SDGsターゲット |
|---|---|--|--|--|
| 気候変動への対応 カーボンニュートラルな社会の実現に向けた取り組み | 私たちは、エネルギー供給を担う者の責務として、資源とエネルギーの効率的利用を追求し、地球環境を健全な状態で子孫に残すため、環境負荷の抑制に取り組めます。 | <ul style="list-style-type: none">サービスステーション新業態への転換電気自動車等への対応水素燃料インフラの整備天然ガスによるOES（オンサイトエネルギーサービス）の展開グリーンLPG等オフセット商品の販売TCFD提言に基づく情報開示自社グループのGHG排出削減生分解性プラスチックの拡販洗濯機からの浄化排水「美里町脱炭素ビジョン」に向けた協定締結太陽光発電システムの設置 | <ul style="list-style-type: none">水素ステーションの建設（三愛オブリテック(株)）: 13件（累計）コージェネ大賞2024 理事長賞受賞（エネルギーソリューション事業部）GHG排出量削減に向けた取り組み：2019年度（基準）比2,821t削減みやき町との包括連携協定締結（三愛オブリガス三神(株) ほか2社）上峰町とのカーボンニュートラルLPGの供給協定締結（三愛オブリガス三神(株)） | <ul style="list-style-type: none">7 気候変動に具体的な対策を13 気候変動対策を戦略及び計画に盛り込む14 あらゆる種類の海洋汚染を防止する |
| エネルギーの安定供給 人々の生活と産業を支えるパートナーを目指す | エネルギーを安全、安定的に供給することで、人々の生活と産業を支えるパートナーとして社会の発展に貢献します。危険物を取り扱う企業として、危機管理と事業継続計画の強化に努めます。 | <ul style="list-style-type: none">調達ルートの強化サービスステーションの非常用設備の充実危険物施設の安全操業、技術継承DXの推進（DX推進委員会の設置）特約店からの運営継承（当該地域におけるエネルギーアクセスの確保）油槽所の代替利用危険物施設の災害対応環境安全監査の実施羽田空港第2貯油基地の建設と航空人材の確保 | <ul style="list-style-type: none">DX推進による業務効率化：削減時間3,484h環境安全監査の実施：234ヶ所SOMPOリスクマネジメント社による労災リスク調査：13ヶ所羽田空港第2貯油基地の建設：2028年竣工予定（航空事業部）調達強化に向けたサプライチェーン統括課の新設（化学品事業部）キグナス石油(株)油槽所の強靱化工事 | <ul style="list-style-type: none">7 気候変動に具体的な対策を11 気候変動に具体的な対策を17 パートナーシップを効果的に活用する |
| ダイバーシティ&インクルージョンほか 人材の確保と育成 | 自社グループの発展と個人の幸せの一致を図るため人材育成やダイバーシティの推進、健康経営に取り組めます。多様な価値観によりイノベーションを創出し、社会に新たな価値を創造します。 | <ul style="list-style-type: none">ダイバーシティの推進女性活躍推進法への対応障がい者雇用両立支援制度の充実柔軟な働き方の推奨人材育成、研修の充実エンゲージメント向上の取り組みサンクスポイント・相互称賛・見える化健康経営の推進人的資本経営の推進人権推進 | <ul style="list-style-type: none">エンゲージメント向上施策「Obbli Awards 2024」の開催「健康経営優良法人2025（大規模法人部門）ホワイト500」に認定「三愛オブリグループ 人的資本経営に関する基本的な考え方」を開示「三愛オブリグループ 人権方針」制定「三愛オブリグループ カスタマーハラスメントに対する基本方針」制定 | <ul style="list-style-type: none">5 ジェンダー平等を促進する8 働きがいも経済成長も3 すべての人に健康と福祉を |
| コーポレート・ガバナンス 経営の効率化と透明性を確保しステークホルダーの信頼を得る | 経営の効率化と透明性の向上に努め、コンプライアンス経営に徹します。実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制を構築し、その仕組みを重層的に運用することで業務の適正を確保します。 | <ul style="list-style-type: none">内部統制の強化社外役員によるガバナンスの強化意思決定と透明性の確保コンプライアンス経営の推進サステナビリティに関する取り組みの定期報告「企業価値向上に向けた現状分析」と中期経営計画の開示TCFD提言に沿った情報開示 | <ul style="list-style-type: none">社外役員：5名（2025年10月現在）内部統制委員会の実施：年4回内部監査の実施：184事業所「三愛オブリグループ 持続可能なサプライチェーン方針」制定（2025年4月）コンプライアンス委員会の実施：年12回「サステナビリティレポート」の定期発行WEB配信による決算説明会の実施TCFD提言に沿った情報開示 | <ul style="list-style-type: none">12 つくる責任 つかう責任17 パートナーシップを効果的に活用する |

OUTPUT 事業概況

4つの中核事業のほか、グループ会社とのシナジー効果を最大化し、お客さまの幅広いニーズにお応えする商品やサービスを提供しています。



石油関連事業

石油製品販売業

特約店への卸売や需要家向けなどの産業用燃料および潤滑油の販売、サービスステーションでの小売販売を通して全国に石油製品を供給しています。



ガス関連事業

LPガス販売業

家庭用から業務用までのLPガスの販売、また、産業用の一般高圧ガス、エアゾール用脱臭ガス、特殊ガス、オートガスの販売を行っています。



天然ガス販売業

全国の工場などに省エネ・省コスト構築のための総合エネルギー供給システムを提案し、天然ガスを販売しています。また、佐賀ガス(株)では一般家庭向けの都市ガス供給も行っています。



化学品関連事業

化学品製造販売業

工業用防腐・防カビ剤や自動車用ケミカル商品などの開発・製造・販売と、商社としてお客さまのニーズに沿った化学品の販売を行っています。



航空関連事業

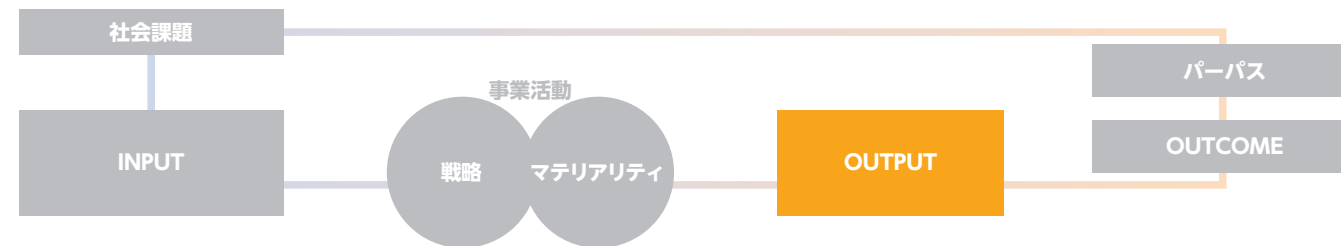
航空燃料取扱業

羽田空港でのハイドラントシステム（地下パイプラインによる給油システム）による航空燃料取扱業務のほか、各地の空港で給油業務や給油施設の管理等を行っています。



その他事業

建設工事業、クリーンテック事業のほか、遊休地などを活用し太陽光発電所を運営しています。

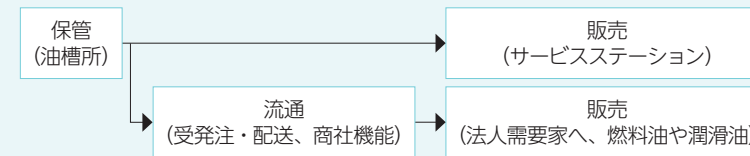


主要な油槽所

4ヶ所

サービスステーション（系列）

全国981ヶ所



LPガスの充てん所
(エアゾール用含む)

11ヶ所

特約店

全国292店



天然ガス導管網の
総延長

479.9 km

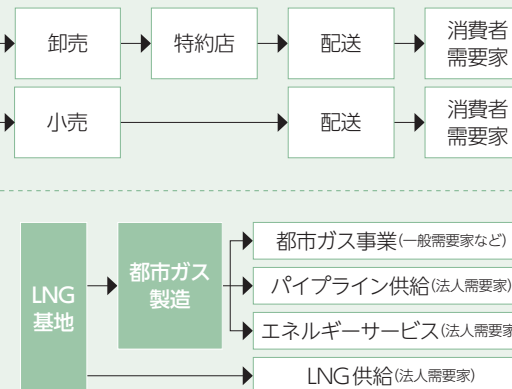
三愛オブリ(株)：46.1km
佐賀ガス(株)：349.1km
伊万里ガス(株)：84.7km

三愛オブリ(株)の
大口ガス供給件数

31件

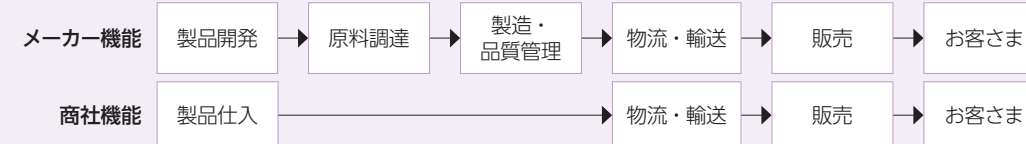
2024年度CO₂削減量
(天然ガスへの燃料転換による)

約45,884t



製造販売している製品

約700製品

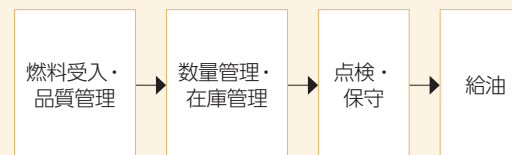


三愛オブリグループが
航空燃料取扱業務を担う拠点

全国27ヶ所

羽田空港における三愛オブリ(株)による
航空機への給油便

約355便/日



三愛オブリ(株)の太陽光発電所

4ヶ所

クリーンテック事業の金属表面処理技術

特許8件

2025年3月末現在

価値創造の
源泉・強み

技術力

航空機給油施設（ハイドラントシステム）の設計・運用のノウハウを有し、研究所ではケミカル商品の開発を行っています。また、三愛オブリテック(株)が持つ金属表面処理技術には定評があります。

信頼性

都市ガス事業における天然ガスパイプラインの導管管理をはじめ、高圧ガス施設や油槽所など危険物施設の安全操業に実績があります。小売部門は高い保安基準のもと、お客さまへ信頼とサービスをお届けしています。

提案力

資本の影響を受けない独立系の商社として、お客さまに最適な商品・サービスをワンストップで提供しています。またグループ会社の小売部門を有することで販売ノウハウを特約店と共有し販売力強化をサポートしています。

顧客基盤

石油、LPガス事業において特約店と長期的なパートナーシップを構築するとともに、化学品、潤滑油、天然ガス事業では大口需要家へ当社サービスを提供しています。

イントロダクション

価値創造の全体像

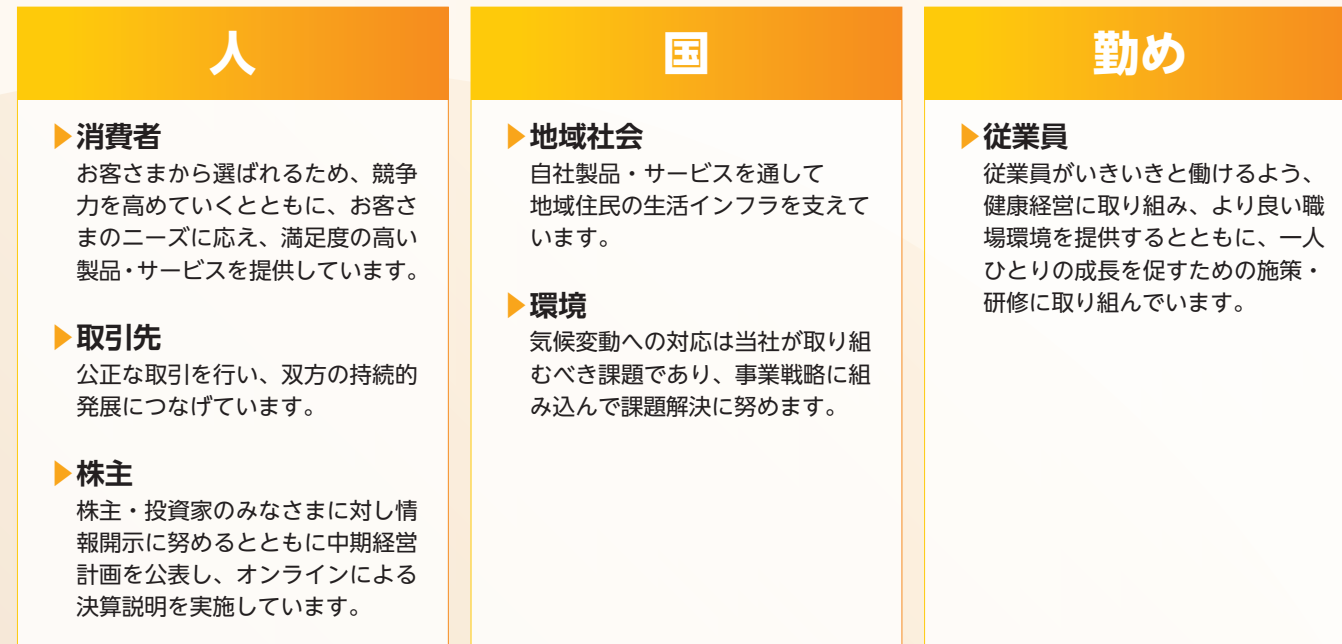
特集

サステナビリティ活動

データ

ステークホルダーへの価値創出

三愛オブリグループでは、幅広いステークホルダーと対話を行い、新たな価値提供に向けて、邁進しています。



2030 目指す姿

低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオへの進化

2030年度に目指す姿である『低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオへの進化』を実現させるため、第1次中期経営計画では『成長実現のための経営基盤の再構築』をテーマに取り組んできました。

第2次中期経営計画では、基本方針『戦略の実行と投資の加速』を推進することで、成長事業、新規事業領域を拡大させ、目指す姿の実現に取り組めます。

2024-2026 第2次中期経営計画 戦略の実行と投資の加速

2021-2023 第1次中期経営計画 成長実現のための 経営基盤の再構築

目指す事業ポートフォリオ

当社が特定するサステナビリティに関する4つのマテリアリティ（重要課題）を「事業戦略」と「サステナビリティ経営の実践」により解決し、2030年度には「低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオへの進化」の実現を目指します。

